

記者発表資料

広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会事務局
広島市中区加古町4-17 財団法人広島市文化財団内
担当：久保田、野地 Tel 082-245-0245 Fax082-245-0246
E-mail：hiroanim@hiroanim.org URL: http://hiroanim.org

第12回広島国際アニメーションフェスティバル開催概要

1 事業名称 第12回広島国際アニメーションフェスティバル

(英語表記 The 12th International Animation Festival, Hiroshima 2008)

2 メインテーマ 愛と平和 (LOVE & PEACE)

3 目的

- (1) 国境や言語を超えた人類共通のメディアであるアニメーション芸術を通じ、人類が平和に生きることを追求するASIFA (国際アニメーションフィルム協会) の心と、世界の恒久平和を願うヒロシマの心が一つになって行こう、「愛と平和」を希求する祭典とする。
- (2) 国内外から参加する多くの人々が世界最初の被爆地広島で被爆の実相に触れることにより、人間相互の尊厳を理解するとともに、平和意識の高揚と友愛・連帯の輪の広がりを願い、世界平和の実現に寄与する。
- (3) 世界の著名なアニメーション作家が一堂に会し、作家と参加者が集い、ふれあいながら、傑出した作品を鑑賞することにより、世界のアニメーション芸術の普及・発展及び映像文化の振興・映画産業の発展に寄与する。

4 主催団体等

主催 広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会
広島市、広島市文化財団

共催 国際アニメーションフィルム協会日本支部

公認 国際アニメーションフィルム協会

協力 日本アニメーション協会

支援 文化庁国内映画祭支援

助成 日本自転車振興会、国際交流基金

後援 外務省、経済産業省

広島県、広島県教育委員会、広島市教育委員会、広島平和文化センター
中国経済連合会、広島商工会議所、広島県経営者協会、広島経済同友会
広島青年会議所

映像文化製作者連盟、日本動画協会、日本映画テレビ技術協会、
中国新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、
産経新聞社、共同通信社、時事通信社

NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、ひろしまPステーション 76.6FM

アニマックスブロードキャスト・ジャパン

ふれあいチャンネル、ひろしまケーブルテレビ

5 概要

世界各国・地域から応募されるアニメーション作品を選考審査（非公開）及び本審査（一般公開）により、グランプリなどの優秀作品を選考するコンペティションを行うほか、国内外の有名作家の作品、他のアニメーション映画祭の優秀作品、子ども向けのアニメーション作品などを上映する特別プログラム、プレゼンテーション、展示会、セミナー、ワークショップなどで構成する総合的なアニメーション映画祭とする。

6 会期 平成20年8月7日(木)～8月11日(月)

7 会場 アステールプラザ（広島市中区加古町4番17号）

8 国際名誉会長 ポール・ドリエセン（アニメーション映画監督・プロデューサー）

9 コンペティション

(1) 選考審査 平成20年5月9日(金)～5月25日(日)

(2) 本審査対象作品数 60作品(予定)

(3) 国際選考委員(選考審査) 5名(日本人1名、外国人4名)

ラオ・ヘイドメッツ(エストニア アニメーション映画監督)

エレナ・チェルノヴァ(ロシア アニメーション映画監督 デザイナー)

ソフィー・ロッジ(イギリス アニメーター アーティスト)

レイ・コサリン(アメリカ アニメーション映画監督 プロデューサー)

西本 企良(にしもと・きよし 日本 アニメーション作家 武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科教授 ASIFA 日本支部理事)

(4) 国際審査委員(本審査) 6名(日本人1名、外国人5名)

(5) 賞の種類及び賞金

・グランプリ	1点	100万円
・ヒロシマ賞	1点	100万円
・デビュー賞	1点	50万円
・木下蓮三賞	1点	30万円
・ルネ・ラルー賞	1点	2,000米ドル(約24万円)
・観客賞	1点	10万円
・国際審査委員特別賞	数点	賞金なし
・優秀賞	数点	賞金なし

10 特別プログラム(予定)

① ピクサー・アニメーション・スタジオ短編最新作「プレスト」(日本初公開)上映と監督によるメイキング・セミナー

② ザ・ウォルト・ディズニー・カンパニー短編最新作「グラゴーズ・ゲスト」(日本初公開)上映と監督によるセミナー

③ ポール・ドリエセン特集

本大会の国際名誉会長を務めるポール・ドリエセンの作品の上映とセミナー

④ 手塚治虫特集

今年、生誕80周年を迎える手塚治虫の代表的な作品の上映とゲストによるトーク。上映作品には「鉄腕アトム」を含むTVシリーズから「おんぼろフィルム」等の短編作品ま

で幅広く予定している。

⑤ ピロット・アニメーション・スタジオ特集

現在、ロシアで最も意欲的な作品を生みだしている同スタジオの作品を上映。なかでも、故アレキサンダー・タタルスキーをたたえ、その代表的作品の数々を上映。

⑥ オリンプ・ヴァラシュテアヌ、ジェオルジェ・スイビアヌ特集

ルーマニアのアニメーションのパイオニア的存在である、故オリンプ・ヴァラシュテアヌと故ジェオルジェ・スイビアヌの2名の監督へのオマージュとして、その代表的作品の数々を上映。

⑦ フィンランド特集

フィンランドの優れたアニメーションの数々を特集して上映。あわせて、フィンランドを紹介する展示を行う。

⑧ 学生優秀作品集

若手の才能を発掘するプログラム。世界の学生が制作した秀作を多数上映。

⑨ 平和のためのプログラム

広島精神と心をつなげた、平和をテーマとする優秀作品を上映。

⑩ 子供のためのアニメーション

子供向けに製作された世界の優秀作品を上映。

⑪ ドニョ・ドネフ特集

昨年逝去したブルガリアの巨匠、ドニョ・ドネフへのオマージュ。代表的9作品一挙上映。

⑫ 「ファインディング・ニモ」ジョン・ラセター監督作品、特別上映

第74回（2004年）アカデミー賞（R）を受賞した、ピクサー・ディズニー製作長編アニメーションを特別上映。

⑬ ラストコ・チーリッチの作品上映と展示。

⑭ デービッド・アーリッヒ展示

アメリカの監督アーリッヒの絵画等の展示。

11 サブイベント

① フレーム・イン

プロを目指す若者を対象に、作品を発表し、アニメーション制作の専門家から指導を受けるとともに、相互の情報交換を行う場を提供。

② ネクサス・ポイント

作家個人や制作会社と映画配給者とのビジネス交流の場として実施。

③ キッズ・クリップ

子どもたちを対象に、アニメーションを表現メディアのひとつとして体験、学習する場として、世界の子ども向け作品の上映やクレイアニメーションの制作体験の場を提供。

④ マッキントッシュ・アニメーション・メイキングワールド

広く来場者を対象に、パソコンによる簡単なアニメーションの制作を体験できる場を提供。

12 関連イベントの実施

(1) パラパラアニメーションコンテスト2008

- ① 内容：アニメーション作りの楽しさを理解してもらうことを目的に、広島市内及び近郊の未就学児、小・中学生を対象として、身近で手軽に作成できる手作りのパラパラアニメーションを募集し、コンテストを行う。応募された作品を国際選考委員5名が審査し、グランプリや特別賞を決定。大会開催期間中に表彰式と入賞作品上映会を開催する。
- ② 募集期間：平成20年4月15日（火）～平成20年5月20日（火）

(2) 国際アニメーション・デー2008 in 広島

史上初めてパリの劇場でアニメーションが上映された10月28日(1892年)を記念して、国際アニメーションフィルム協会が「国際アニメーション・デー」を平成16年に制定し、毎年同日を中心に世界中で作品上映が行われる。

この催しにあわせ、広島国際アニメーションフェスティバル入賞作品の特別上映会を開催し、アニメーションに親しむ機会を市民に提供するとともに、次回大会へ向けた機運の醸成を図る。

入場料金について

5月1日（木）発売開始

区 分		前 売	当 日
1プログラム券	一 般	1,000円	1,200円
	大 学 生	800円	1,000円
	小・中・高校生	600円	700円
1 日 券	一 般	2,500円	3,000円
	大 学 生	2,000円	2,400円
	小・中・高校生	1,500円	1,800円
全プログラム券	一 般	10,000円	12,000円
	大 学 生	8,000円	10,000円
	小・中・高校生	6,000円	7,000円
団 体 割 引		上記各料金の10%引き	

(消費税等を含む)

- 1 未就学児は無料とします。
- 2 大学生とは、大学、短大、専修学校、各種学校の在學生で、18歳以上のものをいいます。
- 3 団体割引は、15名以上を一括して申し込まれたときに適用します。
- 4 以下のものを当日券販売所窓口で提示したときは、前売料金を適用します。
原爆障害者章・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・療育手帳・65歳以上の高齢者であることの確認できる公正証書等（運転免許証、介護保険被保険者証、健康保険証等）
- 5 アニメーションビエンナーレ基金ロボットアニメ展のチケット半券を当日券販売窓口で提示したときは、1プログラム券について1回にかぎり、前売料金を適用します。

前売入場券販売場所

- 1 チケットぴあ (Pコード 479-358)
チケットぴあ店舗、ファミリーマート、サークル K、サンクス)
- 2 ローソンチケット (Lコード 68262)
- ※3 JTB チケット (1プログラム券 0222967、1日券 0222968、全プログラム券 0222969)
JTB 各支店、セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート

以下広島市近郊のの販売場所

- 4 デオデオ本店地下1階プレイガイド
- 5 福屋広島駅前7階チケットサロン
- 6 ヤマハミュージック瀬戸内
- 7 中央書店サンモール店
- 8 ひろしま夢プラザ
- ※9 サロンシネマ
- ※10 シネツイン
- 11 平和記念公園レストハウス
- 12 アステールプラザ
- 13 東区民文化センター
- 14 南区民文化センター
- 15 西区民文化センター
- 16 安佐南区民文化センター
- 17 安佐北区民文化センター
- 18 安芸区民文化センター
- 19 佐伯区民文化センター
- ※20 広島城
- ※21 郷土資料館
- ※22 こども文化科学館
- 23 江波山気象館
- 24 映像文化ライブラリー
- 25 現代美術館
- 26 交通科学館
- 27 松山海陸トラベル 三番町店
- 28 石崎汽船

※印の販売所は今回から初めて取り扱う販売所です。

国際名誉会長

国際名誉会長がポール・ドリエセン氏に決まりました。略歴等については、以下のとおりです。

ポール・ドリエセン (Paul Driessen)



【経歴】

1940年、ナイメーヘン（オランダ）生まれ。1964年、ユトレヒトの芸術専門学校を卒業後、ヘルフェルムス（オランダ）にあるコマーシャルとテレビ番組の制作会社に入社、アニメーション作家としての経歴をスタートすることになった。

1967年、ビートルズファンを熱狂させたジョージ・ダニングの作品「イエロー・サブマリン」の制作に協力を依頼され渡英。1970年、カナダに移住し、フリーランスとして、アニメーションの制作を始めた。主にNFB(カナダ国立映画制作庁)の仕事をする一方で、1976年からは母国オランダのプロデューサーに依頼され、多くの作品を作ってきた。

広島国際アニメーションフェスティバルとの関わりは深く、第2回大会で国際審査委員を務めたほか、コンペティション、特別プログラムでの上映作品が多数ある。なかでも、第8回大会の優秀賞受賞作品「三人のおとめ」は、1999年のアカデミー賞アニメーション短編部門にノミネートされた。

作品に対する国際的な受賞数は70を超え、また、ASIFA やザグレブ大会等から、彼のアニメーション芸術への貢献や功労をたたえる賞を贈られている。

近年の活動としては、カッセル大学（ドイツ）でアニメーションの講座を受け持ち、学生を指導。1997年アカデミー賞短編アニメーション部門を受賞した作品「クエスト」（第6回大会デビュー賞受賞）のディレクターとプロデューサーは共に彼の教えた生徒達である。また、独特の画風による本がモンリオールで英語及びフランス語で出版された。

目下、新しい作品を制作中で、1作はカナダで、もう1作はオランダで実写のディレクターである息子との共同作品となる予定である。

【広島国際アニメーションフェスティバルとの関わり】

1985年 第1回大会にて、「ティップ・トップ」がコンペティションで上映される

1987年 第2回大会にて、国際審査委員を務める（初来日）

特別プログラム「世界の作家たちⅡ」で11作品が上映される

- 1990年 第3回大会にて、「作家」がコンペティションで上映される
特別プログラム「ユーモラス・アニメーション」で「レールのわが家」が上映される
- 1992年 第4回大会にて、「ウォーターピープル」がコンペティションで上映される
- 2000年 第8回大会にて、「三人のおとめ」が優秀賞を受賞する
- 2002年 第9回大会にて、「冰山を見た少年」が国際審査委員特別賞を受賞する
- 2004年 第10回大会にて、特別プログラム「広島フェスティバル受賞作品集4」で「三人のおとめ」が、特別プログラム「ベスト・オブ・ザ・ワールド2」で「2D・オア・ノット・2D」が上映される
- 2006年 第11回大会にて、特別プログラム「マーシィ・ページ特集」で「冰山を見た少年」が上映される

国際選考委員について

国際選考委員は以下の5名です。

	<p>パルヌ（エストニア）生まれ。1981年、タリン工業大学電気エネルギー学部を、電気回路体系網エンジニアとして卒業。1982年、進路を変更し、タリンフィルム・スタジオに参加。当初アニメーターとして、1983年からはディレクターとして作品を制作。1991年、自身のスタジオ、ラオ・ヘイドメッツ・フィルムスタジオを設立。彼の作品は、短編、長編ともに、さまざまな国際映画祭で公式上映され、数多くの賞を受賞している。なかでも、「シアター・パパ・カルロ」（1988年）はシナマ'89（ポルトガル）でグランプリを受賞し、「リビングルーム」（1994年）はKROK'03国際アニメーションフェスティバル（ウクライナ）で批評家及び審査委員特別賞を受賞している。また、ヘイドメッツは、ヨーロッパや北米・南米において子どもや学生、プロの制作者を対象としたアニメーション・ワークショップを数多く開催している。一方、シナマ'90（ポルトガル）、オーデンセ'01（デンマーク）、メッセージ・トゥ・マン'06（ロシア）、KROK'07等、多くの国際映画祭で審査員を務めている。1996年より、エストニア・アニメーション・ユニオンの委員長を務めている。また、1997年から99年、エストニア・フィルム財団の専門理事を、1999年から2001年、エストニア国立TVの青少年向け番組エグゼクティブ・プロデューサーを務めた。2006年よりタルトゥ美術大学でアニメーションを教えている。</p>
	<p>スヴェルドロフスク（現在のエカテリンブルグ、ロシア）生まれ。美術大学を優等で卒業し、モスクワの軽工業技術専門教育機関を卒業後、履物のデザイナーとなる。1990年、ピロッド・アニメーション・スタジオのアニメーション講座を受講し、中割り、レイアウトからアニメーション制作全般をすべて学んだ。その後、広告代理店のデザイナー、アーティスト、アート・ディレクターとして勤務。2002年、フョードル・ヒートルークとエドアルド・ナザロフの指導による脚本と監督のための上級講座を卒業後、ピロッド・アニメーション・スタジオにディレクターとして勤務、現在に至る。ロシア国内外の国際映画祭で受賞多数。代表作に、「アバウト・ア・ガール…」（2002年）、「2+1=」（2003年）、「賢い娘」（2005年）、「アイ・ウォント・テル！」（2006年）、「召使いウサギ」（2007年）がある。</p>
	<p>イギリス生まれ。カナダ、マルタ、ザンビア、ケニア等の国を移り住んだ幼少の頃よりアニメーション制作を始め、11歳の時には、地元のTV局で初のコマーシャル作品が放映されている。美術大学でグラフィック・デザインを学ぶため、ロンドンに移住、その後、ロンドン・スクール・オブ・アニメーションを優等で卒業。BBCドキュメンタリー「ウォーキング・ウィズ・ダイノソア」（1999年放映）の恐竜のアニメーション制作によりプロとしてのキャリアを始め、引き続き同じ恐竜をテーマとしたBBC特別番組「ビッグ・アルのバラード」でエミー賞にノミネートされる。さらに、BBCの長期プロジェクト、アーサー・コナン・ドイル原作「失われた世界」にも参加。コマーシャル制作にしばらく携わった後、2003年には「ロード・オブ・ザ・リング - 王の帰還」の制作に参加するためウェリントン（ニュージーランド）に移住。2004年、研究休暇を取り、ケニアのラム島にて、旅行プロモーションのパンフレットデザイン等を手がける。また、その地でロバに魅了されて描き、作品「ドンキー・ウィズアウト・ボーダー」は、ラム島とロンドンで展示された。2006年初頭、再びピーター・ジャクソン監督の仕事に携わるためウェリントンに戻り、「キング・コング」の制作に加わる。現在、ロンドンとニューヨークでフリーランスとして仕事をしている。</p>

ラオ・ヘイドメッツ

エレナ・チェルノヴァ

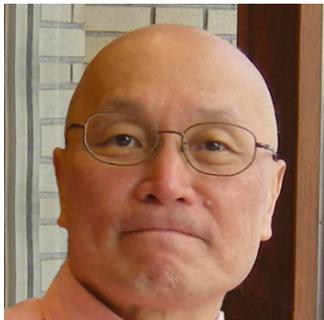
ソフィー・ロッジ



レイ・コサリン
(国際選考委員長)

アメリカ国内制作および国際共同制作による映画やテレビ番組のためのアニメーションを制作、監督している。ヨーロッパでは、スウェーデンのスウェンスク・フィルムインダストリ制作のシリーズ「ザ・ワールド・オブ・トシュ」総監督、ニケロデオン／フォックスのシリーズ「ザ・スリー・フレンズ・アンド・ジェリー」ヘッドディレクター、さらにフォックス／スカイのための「ダ・モブ」総合プロデューサーを務めている。一方、アメリカでは、ヒットシリーズ「ダリア」総監督、TVシリーズ「ビーバス・アンド・バット・ヘッド」「ザ・ヘッド」監督、パラマウントの長編「ビーバス・アンド・バット・ヘッド・ドウ・アメリカ」監督を務めている。さらに、NBC番組「サタデー・ナイト・ライブ」や「セサミ・ストリート」、ブロードウェイ舞台用のアニメーションを手がけ、また、プライムタイムのTV特番のアニメーションを監督し、なかでも、HBOのミュージカル「イラ・スリープス・オーバー」は最優秀アニメーション番組を称えるACEアワードを受賞。劇場用短編作品「アंकクル」はアヌシー（フランス）、ザグレブ（クロアチア）、広島、ブラックマリア（アメリカ）、アニマ・ムンディ（ブラジル）等、多くの重要な国際映画祭にて招待上映されている。

1998年、コサリン・プロダクションズを設立し、海外のクライアントに対応し、また特別プロジェクトのためにヨーロッパのアーティストたちとのコラボレーションを促進している。現在、ニューヨークのスクール・オブ・ヴィジュアルアーツで教鞭をとり、ASIFA-East支部役員理事およびASIFA本部理事を務めている。



西本企良
(にしもと きよし)

山口県下関市生まれ。1975年、武蔵野美術大学造形学部産業デザイン学科商業デザイン専攻（現・視覚伝達デザイン学科）卒業。同学科の助手を務めた後、1982年からフリーランス・アニメーターとして、各種博覧会や博物館、CMやTV番組オープニングタイトル、TV科学番組などのためのアニメーションを手掛ける。教育用マルチメディア・ソフトでのインタラクティブな作品もある。1985年から2004年まで武蔵野美術大学非常勤講師としてアニメーション教育にも携わる。2005年に同大学教授就任後は、主として情報デザインの分野におけるアニメーションの可能性を研究対象としている。自主作品に「積層体」（1982年）、「笑う月」（2000年）などがあり、「笑う月」は、韓国メディア・シティ・ソウル国際アニメーション映画祭2002グランプリ受賞、また、ブラジルのアニマ・ムンディ2002国際映画祭では子どものためのベスト・アニメーション第2位を受賞している。現在、ASIFA日本支部理事。

ポスターについて

第12回広島国際アニメーションフェスティバルのポスターが決まりました。原画・デザインを制作したダイノ・サトウ氏の略歴等については、以下のとおりです。

(1) ポスターの原画・デザインの作者

ダイノ・サトウ氏

【略歴】

1968年 東京生まれ

1992年 東京理科大学建築学科卒業

1994年 東放学園専門学校卒業

1994年 原田大三郎氏主宰 Digital Effects Laboratory に入社

1996年 退社後、フリーランスとなる

国際アニメーションフィルム協会日本支部 (ASIFA-JAPAN) 会員

武蔵野美術大学非常勤講師

ダイノ氏は、「東京理科大学建築学科卒業時、設計ミスは人の命と財産を奪うということに、遅まきながら気づき、アニメーションなら奪うのは時間くらいだと盲信。東放学園専門学校を経て、CGアニメーションの道へ。1996年よりフリーランスでアニメーション、CGクリエイターとなる」と自らの経歴を語る。

【主な作品とその受賞歴】

「あか あお ふたりで」(2006年制作)

受賞歴

2007年 文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品

2007年 ラトビア BIMINI 国際アニメーション映画祭 ウィットと光覚賞

「Freedom (ツリーダム)」(1999年制作) 及び

「SCRAPLAND (スクラップランド)」(2006年制作)

入選・上映歴

- ・アヌシー国際アニメーションフェスティバル
- ・シナニマ (ポルトガル)
- ・アニマムンディ (ブラジル)
- ・アニマドリッド (スペイン) など、アニメーション国際コンペティションに入選

招待上映歴

- ・ICA (Institute of Contemporary Arts) (アメリカ・ボストン市)
- ・ポンピドゥセンター (フランス・パリ市) などで招待上映

(2) コンセプト

地球 精霊の宿るところ

広島 世界の平和を願う街

世界のミュージアムが集う夏

魂の芸術 アニメーションの祭典

HIROSHIMA 2008

(説明)

アニメーションは、生命のないものに魂をふきこみ、動かす、魂の芸術です。

この夏、世界恒久平和を願う広島のマチに生まれる、生命力あふれるアニメーションの世界を、地球上の鳥や昆虫、植物など、さまざまな生き物が集まるジャングルをモチーフにして表現しました。